

様式第1号 (第6条関係)

協働事業に関する提案書

平成 28 年 4 月 8 日

(宛先) 狭山市長

団体名 一般社団法人 生活支援事業所ら一ふ

所在地

代表者名 大塚 豊子

㊟

次のとおり、協働事業に関して提案します。

1 提案する協働事業	市民提案型協働事業・行政提案型協働事業
2 事業名	ら一ふ てらこや LET'S ENJOY ENGLISH
3 事業期間	平成 28 年 6 月 1 日から平成 29 年 2 月 28 日
4 事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度事業 <input type="checkbox"/> 継続事業
5 事業予算	総額 30万円(内補助金申請額 25万円)
6 事業概要 ※100字以内で簡潔に記入してください	英語学習の機会を提供する事業。定期的に英語喫茶を開き、市内外に住んでいるネイティブと交流する。日本人による英語のパフォーマンスを行う。実践的英語を体験するワークショップを開き、楽しく英語を学ぶ。
7 添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 協働事業に関する企画書 (様式第2号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業収支予算書 (様式第3号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業実施スケジュール (様式第4号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業提案団体概要書 (様式第5号)



協働事業に関する企画書

団体名 一般社団法人生活支援事業所らーふ

1 事業名	らーふてらこや LET'S ENJOY ENGLISH
2 事業の詳細	オリンピックまでに外国人と自由に会話できるようになりたいと願う英語学習者は多く、ネイティブと会話する機会を求めている。市にとっても英語でコミュニケーションできる人材を確保、育成することは今日の状況から見て必須事項である。日本語を操れない外国人にとっては市民の英語力が上げれば、生活不安がかなり解消される。このような課題を解決するために、英語学習ができ、それが同時に国際交流となるようなイベントを計画、実施する事業である。具体的には日本語を一切使わない娯楽の場を設定し、さまざまなワークショップを行う。英語喫茶を開き、ショータイムを設けて、紙芝居、絵本の読み聞かせや落語、手作り品の売買やライブ演奏を行う 使用する場所は、公民館、交流センター、いるまおい、コモンズカフェなどである。また、イベント内容に関する英文のチラシの配布なども行う。各英語サークルとネットワーキングする。
3 実施体制	責任者 大塚豊子 スタッフ 平尾次郎 村上紀子 大塚 豊子 真崎智世 Ronila Nakazawa 他、狭山実用英語の会 ネイティブ数名
4 役割分担	【提案団体の役割】 計画、立案、実行 スタッフの準備、配備 【市の役割】 広報や公民館会場の確保、情報提供
5 協働の効果	市民の関心が高くなり、英語学習へのモチベーションが上がる。事業に対する信用信頼度が独自で行うよりも高くなるので、多くの人に参加してもらえる。
6 事業のアピールポイント	"英語で楽しむ、英語を楽しむ"を信条にしています。楽しければ良く学び、良く成長します。先進国中日本ほど英語が通じない国はありませんがオリンピックを控え、英語ができる市民を増やす事は国を挙げての事業です。狭山市は国際理解教育、英語教育の先鞭をつけている市、この課題に市民サイドから取り組みます。外国人から話しかけられても逃げ出さない市民を作り、英語が、通じる街づくりをします。